

うるわし通信



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

令和6年11月

纏向遺跡を利活用したまちづくりに向けて

「通信」編集部では、標記の件に関して前号の三輪参道整備まちづくり事業の継続として、「駅前探訪シリーズ」<地域の顔である駅をランドマークとしたまちづくり>の取組みで、巻向駅周辺のまちづくりの活動を紹介のため、10月14日に関係者の方々に取材をお願いしました。当地での地域住民が主体となって継続的に取り組まれている『まきむくマルシェ』活動を再確認すると共に、「通信」記事を通じて地域へのさまざまな思いを繋ぐプラットフォームの役割が果たせることを願う次第です。

当日の参加者は、「まきむくマルシェ」を進めておられる実行委員会の河口光次さんと辰己順祐さん（九田寺住職）そして、纏向団地自治会の松川要区長に出席を頂き、本会から堀井理事長と「通信」発行担当者（楠木・東・船谷）が参加しました。

【司会】

本日ご参加頂いたことに感謝。「うるわし通信」は昨年11月に100号を発行し、今年度の計画として「駅」に注目した地域のまちづくりを継続して紹介をして行くことを計画。前回の三輪そして今回の巻向、今後は朝倉や初瀬そして大福地域等の取組みの取材・掲載を予定。巻向駅前で行われているマルシェ活動などについて、教えて頂きたい。

<まきむくマルシェ>の歩みと現状

【河口光次実行委員】

スタートは令和3（2021）年11月に2家族で出発。開催を重ねる度に協力者、出店者、紹介者等が増え、いろんな方に支えて頂き、繋がり、感謝の気持ちでいっぱい運営に携わっております。今は、校区自治連合会の各区長さんのご支援で、マルシェのチラシを市広報誌の配布と一緒にして頂き、校区住民に広く知られるようになってきています。また、出店者も地元関係者、社会福祉関係者や市外からの参加もあり、校区住民相互の交流の場ともなっています。



■ 第1回令和3年12月12日

6店舗出店



■ 第2回令和4年4月16日

14店舗出店

【辰己順祐実行委員】

九田寺としても、令和2年から写経会や寺塾、そして「おてらマルシェ」などの取り組みを行って来ていましたが、「まきむくマルシェ」という形で、纏向遺跡で有名な巻向駅前で地域住民の方と力を合わせておこなうことを年3~4回、通算10回実施するようになって来ています。

【松川要区長】

地元で始められた皆さんの取り組みが継続していけるように、自治会としても協力を惜しまないで、区長会として協賛・後援の対応を進めている所です。また、昨年10月に大相撲桜井場所があった時、「相撲発祥の地」の相撲神社での式典の後に、松井市長がマルシェ会場を訪れて励ましを受け、関係者も大変うれしく感じている所です。

【編集部】

マルシェのホームページには、これまでの取り組みが詳しく紹介されていますが、この取組で、いま課題となっている事は、どのような事ですか？

【河口光次実行委員】

駅前で開催しているのですが、JRを利用される方は便利ですが、車で来られる場合駐車場が無いので、主催者として場所を借りている状況で、駅周辺の細い道も安全通行の関係で気になる場所ですね。

【松川要区長】

このような取り組みが継続されていくことを期待しています。また、近くの医療機関での開催なども「出前マルシェ」という形で開催して頂いて広がりにつながっていると考えています。

<纏向遺跡を活用したまちづくりに向けて>

【河口光次実行委員】

活動を継続している中で、出店者や地元の方が、「もっと纏向遺跡を知っていきたい」「地域の歴史遺産を活用した取り組みが在って欲しい」等々、地域のまちづくりや活性化の取り組みに関心を持っている人が多くおられることを感じています。

【堀井理事長】

マルシェへの参加者や、纏向遺跡を訪れる方々にとって、今の巻向駅は本当に恥ずかしい状態になっている。駅ホームがひび割れしており、駅表示看板が傾いている、そして先ほども指摘があった駅前広場は狭くて、交通安全面でも対策が急がれる状況と言えます。

纏向遺跡の目玉でもある「大型建物跡」へ行くにも、駅周辺をぐるっと回らないと行けない状況で、遺跡への駅から行ける連絡通路づくり、そしてまた、駅前道路の拡幅を含めて、駅前広場整備や遺跡のガイダンス施設など、総合的な整備計画を作成することが求められています。

飛鳥・藤原京の世界遺産が令和8年に認定されると、奈良県の次の目標は纏向遺跡・オオヤマト古墳群の整備になってきます。早急に地元も対応を考えるべきです。



ひび割れて傾くホームと駅名看板

<待ったなしの駅前周辺整備>

【松川要区長】

区長会でも市役所への要望活動をおこなって来ていますが、施設の概要の説明を受けていますが、今後どのように進められるのかは聞いておりません。また、駅前整備の総合的な計画が持たれているような話もうかがっていませんね。

【河口光次実行委員】

今の駅前の狭い道路では、観光バスが通ることも出来ません。そのような条件整備が駅前整備としても必要だと思いますね。

【堀井理事長】

JR西日本は「駅舎改修は周辺のまちづくりと一体で考えたい」と言っています。まず地元で周辺整備計画をまとめる必要があります。

折しも石破内閣は地方創生交付金倍増計画を掲げています。このような機会を捉えて国の力も借りながら課題解決に一步でも二歩でも前進できればと思います。

【辰己順祐実行委員】

マルシェの関係者や参加者も、地域の今後の事には関心を持たれています。しかし、情報がなかなか入ってこない状況で、どのように関心を高めていくのかが課題です。

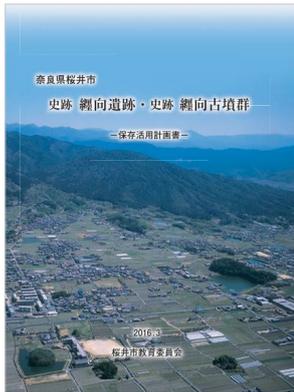


拡幅が望まれる駅前の道路

<さまざまな思いを集約する場づくり>

【編集部】

本日はいろいろな話を聞かせて頂き、ありがとうございました。



桜井市は、令和28（2016）年3月に『史跡 纏向遺跡・史跡 纏向古墳群』保存活用計画書を教育委員会として今後の整備計画を示しています。ガイダンス施設のこともその中で書かれていますが、進捗は「一時休止」になった面もあるようです。

今日の話をお聞かせ頂き、桜井市だけでなく奈良県や文化庁、国土交通省も積極的に参画してもらえそうな働きかけが求められていると再確認しました。

また、地域住民の方や市内外の纏向遺跡に関心を持たれている方々の、さまざまな意見を集約する場づくりも必要だと感じました。

【松川要区長】

地元の区長会として、今後の地域づくりを進めて行くうえで、いろいろと意見はあるだろうと思いますが、住民の意見を反映していける取組みと、それを受けて行政としてもどのように纏向地域のまちづくりを進められようとしているかを、情報交換できるようになればと思います。

【堀井理事長】

本日は有意義なお話を伺うことが出来て有難うございました。うるわしの桜井をつくる会としても貴重な歴史資産の纏向遺跡を活用したまちづくりが進展することを願っております。今後も推進に協力させていただきたく、引き続きよろしくお願いたします。

【編集部】

市内で、県との包括協定を結んでまちづくりの取組みを進めているところでは、〇〇地区まちづくり協議会という意見の交換と集約を進める場を持っておられま
す。直ぐには行きませんが、そのような取組みも、纏向地域で検討されたら良い
のではないのでしょうか。本日はありがとうございました。

【今後のまきむくマルシェ】

● 秋マルシェ

日時：令和6年11月17日(日)11時～15時
場所：九田寺駐車場

● 冬マルシェ

日時：令和6年12月15日(日)11時～15時
場所：JR巻向駅周辺
問合せ先：☎090-3978-1266(河口)



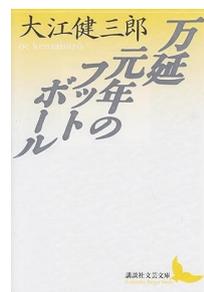
桜井図書館友の会

- 読書会は『万延元年のフットボール』 大江健三郎著
四国の谷間の村を目指して軽快に出発した、戦後世代の切実な体
験と希求を結実させた画期的長篇 谷崎賞受賞

日 時：令和6年11月30日(土) 午前10時～12時

場 所：桜井市市民活動交流拠点会議室(エルト桜井2階内)

問合せ先 南部 ☎ 0744-43-5949 会員以外の参加も歓迎します。



編集後記

宇陀市菟田野地域で毎年行われている『宇太水分(みくまり)神社』の秋祭り神輿巡
行(10月20日)に行ってきた。1台1トン(1000kg)ほどの重さの神輿を担ぐのに、交
代要員を含めて100人近い青年～壮年～地区役員が必要で、その神輿が6台神社に繰入れ
て来る姿は勇壮であった。すなわちこの祭りのために、700名以上の神輿の担ぎ手が必要
であるが、地元では青年層が都会に出ていることもあって、この日は地元以外の知人友
人を誘っての担ぎ手の確保がおこなわれているとのこと。このような盛大な伝統行事を
引き継いでいる関係づくりが、地域づくりや活性化に繋がっていることを強く感じた。



見学者は担ぎ手の2倍以上の人
びとが境内で声援を送りなが
ら出迎えた。(編集子 楠)

うるわし通信発行人
ひがし俊克
TEL:090-3652-8104